

キカイときかい

第5期OB 千葉 貴宏

2011年1月31日午後1時31分。修士論文を提出したあと、編集長に急かされ、ようやくOB会誌のエッセイを書き始めました。編集担当の現役ゼミ生の皆さん、ごめんなさい…。ところで、年をとると、時間が過ぎるのがどんどん早くなるとよく言われます。しかし、私の体感時間は一向に短くなりません。自分で感じる1年間が短くなったと感じたことはかつてありません。私は大人にはなれないのでしょうか。仮にそうだとすると、少くくは早く時間が過ぎてほしいものです。2010年は本当に長い1年間で、本分の研究の方はどうだったかといえば、数多くの学会発表を経験させていただきました。米国マーケティング協会（AMA）主催のコンファレンス、日本商業学会、韓国マーケティング・サイエンス学会、日本消費者行動研究学会…。最後に挙げた日本消費者行動研究学会では、私の論文プロポーザルに対して最優秀賞をいただきました。突然自慢して申し訳ございません。



AMAで研究発表を行う著者

そんな忙しい1年だったからこそ、成長できたような感覚もあります。陳腐な表現ですね、「成長」って。成長って一体何なのでしょう。新しい知識が増えることでしょうか。できなかったことができるようになることでしょうか。あるいは、働いてお金を稼ぐようになることでしょうか。ここで、偉そうに、私なりの成長を述べさせていただきたいと思います。私が成長を実感する瞬間は、機械的にこなせることが増えてきたと感じるときです。嫌な言葉に聞こえますね、「機械」って。機械的にこなすというのは、頭を使わなくてもできることをするという事です。1年前は必死に考えなくてはならなかったことが、今は考えなくてもだいたいこんなところだろうと推測できる。1年前は小野先生に必死にご指導いただかなければならなかった問題が、今はたやすく理解できる。そんな経験の積み重ねが、私に自身の成長を実感させてくれます。皆さんはいかがですか。共感されにくい気もしますが。

機械的にこなせることが増えたから、何が良いのか。機械的にこなせることとは別の、新しいことを考えられる機会を得られることです。ダジャレです、「機会」って。あっはっは。くだらないことをほざきやがって、と思われる方もいらっしゃるかとは思いますが、私にとっては、これは決定的に重要なことです。多くの作業を機械的にこなすことによって、難しいことに注力できます。研究にあたっては、文章を執筆したり、統計解析を繰り返したりすることにばかり時間を割いては、理論と現実世界のアンノマリーのギャップに気付くこともできなければ、画期的な仮説を導出することもできないと思います。おそらく多くのゼミ生と同じように、私も学部生時代は、文章執筆や統計解析にばかり時間がかかっていました。今は違います（たぶん）。考えるべき新たな課題に出会う力を修士課程で得て、これからの博士課程においても、自分の知識と知恵の地平を広げるべく、キカイときかいで成長していく心づもりです。